

Fontaine

vol. 49

発行日 2015年10月25日
発行/岸和田文化事業協会〒596-0073 岸和田市岸城町5-10
岸和田市立自泉会館内
TEL/FAX 072-437-3801
Email:fontaine@sensyu.ne.jp
http://www2.sensyu.ne.jp/fontaine/

ご縁に導かれて

乙女文楽「光華座」主宰 吉田 光華



私は義太夫や長唄などに合わせて、一人使いの文楽人形による「乙女文楽」を演じてアマチュアで5年、プロフェッショナルとして17年になります。

この道に入るとは夢にも考えてはいませんでした。平成4年文楽愛好家のある大学の教授が、文楽の「人形遣い」と「人形作り」の講座を開くと新聞に掲載されたのを見て応募したのです。何も考えずの行動でしたが、私の母が文楽好きであった影響があったのかもしれない。

人形遣いは私の師匠となる吉田光子さんが教えてくれましたが、何しろお手持ちの人形が一体しかありません。そこで人形作りの方も習いました。大変な難しさでしたが首(かしら)や手を二体分作りしました。5年を経て、講座生で何体かの人形が出来、操作もある程度は習得出来た段階で、制作した人形の展示会を心齋橋にて開催し、平成9年3月に旗揚げ公演をすることとなり、そのことが新聞報道されました。

「乙女文楽」は、大正から昭和の初期にかけて浄瑠璃の床本を置く見台も作っておられた大阪の井上仏壇店のご主人が、ご自身が大変な文楽愛好家であることから、長女と次女には義太夫を、もう一人の娘には人形使いを習わせ、ほかの娘さんも加えて「乙女文楽」の一座を立ち上げ公演を行い大変好評を得、引く手あまただったそうです。その頃大阪ではほかに2座あったそうです。私の師匠の吉田光子さんはこの井上さんの娘さんです。

しかし、「乙女文楽」の隆盛は続かず、第二次世界大戦による人形の焼失などですっかり廃れてしまいました。それを復興しようとされたのが先に述べました講座だったのです。

さて旗揚げ公演の当日、今は亡き五代目桂文枝師

匠が舞台脇でご覧になっておられました。そして次の日私の所へお弟子さんが来られ、五月の「桂文枝独演会」に出演して欲しいと落語「天神山」にての共演を申し出られたのです。三月に旗揚げ公演、二ヶ月後の五月には文枝師匠との共演をさせていただき、これをきっかけに、全く思いもよらぬ流れに身を置くことになりました。桂文枝師匠との出会いは一生の転機と言えるもので、たくさんのことを学ばせていただき感謝するばかりです。

その後、プロフェッショナルとして独立することとなり、公演を重ねるにつれてあちこちからお声がけをいただき、広く各地へ公演させていただきました。

東京では現在も娘義太夫さんが30人ほどおられますが、その第一人者の竹本越孝さんとの共演にも恵まれました。

そして海外では今までに、フランス、オランダ、オーストリア、インドネシア、ラオスなどで公演を重ねているうちに、思いがけなくフランスオペラに出演依頼がきました。昨年10月、11月にパリとランスで公演し大変好評でしたので、来年2月フランスでの再演が決まっております。

ご依頼いただいた公演は全て受けさせていただき、「乙女文楽」を広く知っていただく貴重な機会と大切に演じてまいりました。それによって演目も広がり、首も衣装も増え、たくさんの方々のご縁が広がり、様々なコラボレーションの機会にも恵まれ感謝の思いを深くしております。

後継者についても、弟子入りを希望してくださる方が現れて、現在一座に加わってもらっています。地道に歩み続けて行くことにより道が開けると、不思議なご縁に感謝の気持ちでいっぱいです。

「岸和田紀行」を著した

破鏡尼
菅沼逸

近世の女流文芸はかなりの数が知られているが、特に紀行文や旅日記などは作者の人生のある特定の時期の生活や心情を綴ったものとして創作とは異なった意味を持つ。こうした女性たちのひとりに、生まれ故郷岸和田への紀行文「岸和田紀行」を残した破鏡尼・菅沼逸がいる。

破鏡尼・菅沼逸は、岸和田藩士高久（たかく）家の出であったと推定されている。生年・没年とも不明。高久家は250石ないし300石の禄高で、岸和田藩の中ではかなりの家柄である。いつ菅沼家に嫁いだか不明であるが、元禄2（1689）年頃には既に菅沼家の人になっていたと推則されている。

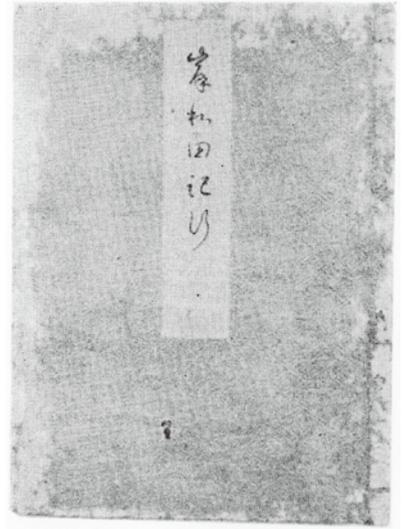
菅沼家は膳所藩の名門であり、膳所藩主本多氏と深い血縁関係がある。

夫菅沼定常は芭蕉の門人で号を馬指堂曲水（曲翠）といい、蕉門十哲の一人である。芭蕉に膳所での居所「幻住庵」を提供した経済的な支援も行い、芭蕉が「幻住庵記」を著わすきっかけとなった。

「岸和田紀行」は、10人の兄弟の中でただ一人残った姉に会いたいという逸の願いに夫定常が応えて、定常及び姪の嘉枝や供の者と計6人で岸和田に帰郷した、正徳3（1713）年3月3日の出発から3月15日に膳所に帰り着くまでの旅日記で、逸の本文と和歌13首に夫が俳句11句を添えている。

3月3日に膳所を立ち、伏見から船で大坂を経て4日には岸和田に着き姉栄寿院と20年ぶりの再会を果たし、多くの血縁者たちとも会えた。5日、岸和田城を仰ぎ、産土神にも詣で、6日には水間寺に詣で次の膳所藩主となる本多康命（定常の従兄弟に当たる）の厄祓いを祈念したのであるが、4年後、この康命により菅

沼家が断絶されようとは、夢想だに出来なかったであろう。7日以後津田の浦、加太、和歌山、紀三井寺、吉野山、長谷寺、三輪明神、奈



「岸和田紀行」写本の表紙
「岸和田の文化財」II 岸和田市教育委員会発行より

良、宇治と15日の夜膳所に帰り着くまでを簡潔にしてたおやかな文章で表現している。

「岸和田紀行」は泉州に住む私たちにとってごく親しい地名・名跡が数多く記されおりとても興味深く親しみを感ずる。

享保2（1717）年7月20日、夫定常は、藩主本多康命の寵臣曾我権太夫の不正を断つべく討ち果たして自刃した。定常は正義感の強い人であったらしいが、本多家との血縁の深さもこうした行動に出る動機の一つではないかといわれている。藩主康命の怒りは深く、江戸にいた菅沼家の18歳の嗣子菅沼内記定季は閉門の後切腹を命じられ菅沼家は断絶した。夫と息子を亡くした逸は、亡くなった二人を弔うために出家し、「破鏡不再照」の意をとって「破鏡尼」と称し、残る息子二人及び娘一人と堺に幽居した。

当時堺には破鏡尼の甥の竹田楚竹（医師・狂歌師）が住んでいた。彼は若い頃、破鏡尼の夫に養われ京都遊学の学資も出してもらっており、狂歌をたしなむようになったのも曲翠の影響であった。ために伯母の生活の援助をしたと考えられている。

破鏡尼は和歌が堪能であったのに加え筑紫箏の名手であったという。後に「破鏡流」と呼ばれる筑紫箏の一派を成したと伝えられる。

参考文献：

- 「江戸時代女流文芸史」{旅日記編} 一地方を中心に
前田 淑 著 （笠間書院刊）
「近世畸人伝」巻二「破鏡尼附曲翠」
伴 蒿蹊 著

Cultural Hot Spot In Kishiwada

行ってゆったり、聞いてほっこり
むくの木ホール

岸和田の山あいの小さな集落「阿間河滝町」に素敵なホールがあるのをご存知ですか？

歴史あふれる民家の庭に立つホールは素晴らしい音楽設備が整っていて、常設のピアノはドイツからわざわざ輸入したスタインウェイ社1962年製のフルコンサートグランドピアノ完全リストアモデル。同じ敷地内にはレストランなどもあり、日常を忘れさせる時間を過ごせることは必至です。

今回はホールのオーナーである奥 憲一さんにお話を聞かせていただきました。



むくの木ホール外観

ホールについて教えてください。

2年前に開設しました。5年前に妻が亡くなり子どもたちも巣立っていき、一人で住むには大きすぎるうえメンテナンスにも困るため、それならこの家を通して、多くの人が集い何かしら文化を発信できないかと考え音楽ホールを建設することにしました。

ホールにはピアノはもちろん、音響機器もすべて最高品質のものを揃えました。プロジェクターも設置し、映像音楽会などにも使用できるようにしました。また庭の木々の雰囲気も十分味わってもらいたいと両側の壁は大きな特殊ガラス張りに、ホール内の床材も音の響きにこだわった材質を選びました。

音楽以外にホールではどのようなことをされていますか？

クラシック音楽の演奏会やピアノの発表会などの他には大学のゼミや勉強会、絵画や映画会の講演会などにも使ってもらっています。ホールの使い方は幅広く自由です。個人の音楽練習用にも使えます。阿間河滝町会の役員会でも使っています。

ホールの名称「むくの木」は門の前の大きな木からですか？

ええ。樹齢400年をこえる天然記念物のむくの木です。

今もその勇壮な姿でわが家のシンボルになっています。

今後の展望はどのようにお考えでしょうか？

この阿間河滝町が「音楽の拠点」文化の町になってくれればと思います。ホール建設にあたっては多くの音楽関係者の協力を得ました。この町にも多くの音楽愛好家があります。いろいろな人の力を結集して音楽の町、文化の町を目指していきたいと思い「むくの木室内オーケストラ」を結成しました。楽器によってはまだメンバー募集中です。

またこの町の素晴らしい風景は世界の歴史ある地にも相通じるところもあると思います、海外の演奏家を招き有志の個人宅にホームステイしてもらいながら、演奏会を開いていくなども今後考えていきたいと思っています。

「音楽の再生」ができる場所、これがこのホールの目的です。



むくの木ホール内の様子

奥オーナーが以前住んでおられた築200年以上の母屋は、改装してレストランの他にも酒屋、美味しいパン屋さんなどになっています。

秋の夜長、素敵な音楽と食事を楽しむ……いかがでしょうか。

(取材・文 小島栄子・本郷元子)

※本協会では、今後「むくの木ホール」ほかの文化ホールと連携して文化活動を展開できればと考えています。「むくの木ホール」の近日のコンサートをご紹介します。

※11月8日(日) 15:00開演 「沢田知可子コンサート」 チケット 5,500円

※11月29日(日) 15:00開演 「稲本 渡クラリネットコンサート」 チケット 3,000円

※両日とも送迎バスあり。14:00発 南海岸和田駅中央口ロータリー、14:15発 JR東岸和田ロータリー (乗車賃無料)

※詳しくは「むくの木ホール」 ☎ 072-493-6929、またはホームページで。

歩いて岸和田のよさを知る

岸和田慢歩

第19回 「ふたつの城址が残る尾生・福田の町を歩く」



① 浄念寺

永正13(1516)年に開基された浄土真宗の寺院。焼失した岡山御坊の本尊である「阿弥陀如来像」や「親鸞聖人御影」などの「岡山講什物十点」を順番で受け継ぐ8ヶ寺のひとつで、明治6(1873)年には光明小学校の前身である「尾生小学校」が本堂で開校された。

② 菅原神社

尾生・中尾生・福田町の氏神。主祭神は菅原道真だが、境内にはかつて尾生村に点在していた牛神社、廻り神社、笠松神社などが合祀されている。また、妊娠した女性が安産を祈願するために穴を掘り水を張った古い手水鉢や、町内の力自慢が持ち上げたり担いで力自慢をしたとされる石石も残されている。

③ 馬場跡

尾生城で飼われていた馬を集めて調教した「馬場」の跡とされる場所。近くには調教を終えた馬を洗う「馬洗い淵」の跡もある。

④ 湧水跡

現在の尾生郵便局の裏の崖下からは、新鮮な水が湧き出していたとされ、地名も「冷や水」と呼ばれていた。このような湧き水は「うぶ」とも読まれ、それが「尾生」の語源だという説もある。

⑤ 休み場橋

轟川にかかる橋のひとつで、地元ではなまって「やすんばばし」と呼ぶ。名前の由来は、城や馬場などで仕事を終えた人の休憩場所だったからといわれている。

⑥ 尾生城址

高台にある光明小学校は、14世紀の永禄年間に建てられた「尾生城」の跡地とも考えられ、周囲には馬場や馬洗い淵、休場などの城に関する古い地名も残されている。なお岸和田市内にはほかにも、26の城址があったとされる。

※編集の都合上、地図の縮小率は正しいものではありません。
国土地理院発行やネットなどの正式な地図と照らし合わせて、散策することをおすすめします。

岸和田市の中央部分に位置する尾生地区の地名は、湧水を指す「うぶ」からという説のほかに、い草が一面に茂っていたことから「蘭生野(いぶの)」と呼ばれ、それが転じたとも考えられています。そんな蘭生野の名は『日本後紀』延暦23(804)年の条に見られるほど、古い歴史があります。さらに「福田」は「吹井の里」と呼ばれていたものが転じたとされ、炭火を「吹いて」鉄製品をつくった鍛冶集団がこの地に暮らしたのが由来。その鍛冶集団は神亀2(725)年に久米田池の築造が始まった際、行基上人が連れてきた人々だと考えられています。このように1200年以上にわたる歴史のある町を、今回はご紹介します。

理事 齒黒猛夫

⑦ニコニコ地蔵

福田町地車庫の隣に鎮座する地蔵尊で、その名の通り表情は穏やか。周囲は狭いながらも児童公園になっていて、春には桜が咲き誇る。

⑧たな川塚

尾生駐在所から道を挟んで向かいにある竹林。立ち入ることは難しいが、中には墓石のような石が置かれているとされ、橋諸兄の墓ではないかとも考えられた。だが、後の調査で神社跡であることが判明。そのためか「神さん山」とも呼ばれる。

⑨福田弁財天

福田バス停から少し路地を入ったところに祀られている弁財天の神社。ここは轟川と真谷川が交わる場所に当たるため、水の様相である弁天さまを祀ったとも考えられる。

⑩福田城址

尾生城と同時期に建てられたとされる「福田城」は、福田町公民館の裏手にある小山が跡地だと推定される。城主は地元の名族である福田氏で、1558年ころに起きた稲葉城主との戦い(稲葉の合戦)では、福田九郎左衛門が活躍したとの記録もある。

スタートは尾生バス停から。バス停の前にはだんじり小屋らしきものが建っていますが、これは尾生町の旧地車庫で、現在は別のところに移転しています。この旧地車庫の横の道に入らず、しばらく山側に向かつて歩いたところの二又に分かれた道を左に折れ、直進した突き当りが「浄念寺」と「菅原神社」です。寺と神社の前の道をカーブを描きながら道なりに進み、突き当りを右折し、次の角を左に曲がって緩やかな坂を上ると「馬場跡」に到着。ちなみに、角に建つお屋敷にお住まいなのは「馬場さん」です。

馬場跡の十字路を右に曲がり、福田町へ向かう道路を山側に歩くと尾生郵便局があり、この裏の崖が、かつて水が湧いていたとされるところ。郵便局の角を左に曲がって坂を下り、1本目の細い道を右に曲がり、突き当りを左に進むと、轟川にかかった真新しい「休み場橋」が見えてきます。川に沿って道路に戻れば「尾生城址」と推定される光明小学校です。

小学校の前を山側に進み、左側の公園に祀られているのが「ニコニコ地蔵」。お地蔵さんの隣には、福田町の地車庫と尾生駐在所が並び、道を挟んで向かいにある小高い竹林が「たな川塚」です。

そのまま福田町方面に進み、バス停を過ぎて二手に分かれた道を左に曲がり、すぐの角を左折してしばらく歩くと、左手の路地の奥に「福田弁財天」の鳥居が見えてきます。元来た道に戻り、左に曲がってすぐの道を右に曲がると、竹に覆われた小高い山が見えてきます。これが「福田城址」と考えられている山。再びもとの道に戻って福田バス停に戻って、ゴールです。

尾生地区は岸和田市内でも、近年開発が大きく進んだ地域のひとつです。そのため、新しい道が通り、新築の家も立ち並び、久しぶりに訪ねた人は、様変わりした様子に驚かれるかもしれません。しかし、遠くに神於山を望む風景は昔のまま。高台に上って目の前に広がる展望は、まさに絶景です。余力があれば、「蜻蛉池公園」まで足を伸ばすのもおすすめです。これからの季節は、地元の名産でもあるミカンも色付き始め、より目を楽しませてくれることでしょう。

岸和田 あら・か・る・と

『岸和田弁歳時記』 「亥の子の苦餅」

理事 藤田 保平

やい、亥の子の餅搗いたか。え、お前とは隣知らず①やてか。それもシャラク②早よてええわ。やっぱリキナ粉でころばす③やろ。そらそやろ。ほんで、何んで今日や判ってんかア。判らんとやってんかえ。気楽トンボやのう。何ん今日ならて言うたらね、陰暦の十月の初めての亥の日の亥の刻に、田ア^いの神さんが一年の仕事を終えて山へ去になさる。その神さんに「お陰でこない立派な餅が出来ました」てお供えて、そのお下がり吾々が頂くちゅう訳や。春四月にハルゴト④をして、山から下りて来なさる田アの神さんをお迎えして苗代の拵え⑤して、ほて田植え、ちなことで米作りが始まって、八十八回手エを掛けて秋の取り入れ、それからも初干して白挽き⑥して、やっど米になる。ここまでが表毛⑦。引き続いて手エ休めてる間ア無しに裏毛⑧の段取りや。麦や小麦の種播き、玉葱の植え付けと一段落着いたところが、十一月の中頃になってんじゃ。つまり今日。平成二十七年十一月十九日。亥

の刻は午後十時ちゅうこつちや。この餅を食うと万病を除くまじないて云われる。また、亥は多産なさかい子孫繁栄を願うんじゃ。苦餅で何て云うかちゅうと、この晩から夜鍋⑨が始まる。女子は糸紡ぎ、機織り、裁縫。男共は縄織い、筵造り、藁草履作り等々。結構辛いので、この晩の餅が苦く感じられることからそない云うたそうな。田ア^{きつしよ}に関わりの無い地域の人らは、この日を吉祥⑩に炬燵を出したんやてよオ。

- 〈注〉
- ① おはぎ
 - ② 手っ取り早い
 - ③ まぶす
 - ④ 村の小高い丘や池の堤などで村人揃って持参した弁当を食う親睦会
 - ⑤ 準備
 - ⑥ 初摺りして玄米になる
 - ⑦⑧ 二毛作
 - ⑨ 夜仕事
 - ⑩ きっかけ



Ichigo-Ichien

朔



理事 堀野 和人

子供の名前です。
 どんな漢字?と問われたら、
 左に逆のしんにょうを取り外した漢字を置いて、右にお月さんで「朔」
 八朔の「さく」ですよとか。
 詩人の萩原朔太郎、少し前ならセカチューの朔太郎でもよいのですが、
 前者の方が会話はつながり、
 で、どういう意味ですか?となる。
 漢字の意味は、
 月が元に還る(=逆)という、漢字の成り立ちから新月の事。
 そこから、物事の始まり、朔日(ついたち)、はたまた北の方位などと意味や解釈が広がっていく。
 英語は新月そのまま「new moon」

調べていくと、いつか取り外した方の「しんにょう」
 が気になってきて、
 道や歩く事に関する意味を表すらしい
 辺 近 迎 返 送 退 追 逃 迷……確かに。
 で、朔にしんにょうを付けたら廻る。
 新月に向かうという事で、流れに逆らって進む…廻る。なるほど。
 字面が気に入っただけで名前の候補に入れてから、
 さてさて、名付けの理由は必要ななど考える。
 長男ならば、なんとなくハマるがそうではない。
 ならばと、こちらが願いを込めたわけではないが、
 自ら、6月の朔日にこの世に生を授かって一件落着。
 続いての女兒はカタカナで「カレン」を推したが、
 あえなく撃沈。
 Karen 可憐 ユニバーサルな思ひは、ペットにでも。

マイム

黒木 夏海

黒木夏海です。マイムをしています。
 マイムとは、パントマイムやミームコーポレルドラマティック、
 ミモDRAM、クリスマスパントマイムなどの、総称です。
 クラシックバレエやジャズダンス、タップダンス、コンテンポラリーダンスなどを纏めて、ダンスと言う、そんな感覚で捉えて頂けたらと思います。
 というわけで、マイムをしています。
 マイムに出会ったのは、高校生の頃。小さい頃から演劇を観るのが好きだった私は、大きくなって変わらず演劇を観続けていました。
 ある日、芸能見本市という色々な芸能を紹介するイベントがあり、そこに私は足を運びました。
 15分ほどの作品を各団体が上演していきます。その一団体に、のちに私の師となるマイム俳優いむろなおきさんがいました。
 「蛙の一生」という5分ほどの作品。
 私は震えました。生物が生まれてから死ぬまで、それこそ一生をかけてしか出来ないことが、5分の中にキラキラと詰まっていたのです。
 そして、言葉や小道具を使わないことによる、目の前にないはずの景色が広がってくることの驚き。



なつみ

その時の震えは未だ鮮明に記憶に残っています。
 それからすぐには、やろう、とは思わなかったのですが、これまた偶然が偶然を呼んで、今、マイムをしています。
 マイムを学び始めたのが20歳になる直前の19歳。今の私は30歳です。飽き性である私には、息をする、食べる、寝る、歩く、話す、の次くらいに長く続けていることです。
 好きこそものの上手なれ。と言いますが、上手になるのはもちろんのこと、出会いもまた然りで、好きなものを見つめ続けていたら、もっともっと好きなものに出会えるのだと、思います。
 今、私はマイムをしていて、教えたり、舞台上に立ったりしています。
 これから先、何をしているかはわかりません。でも、きっと、マイムは続けているだろうし、好きなものに出会い続け、もっと充実した日々を過ごしているんだろうと確信しています。

Event Report

アンケートからの抜粋

協会主催の事業にご来場いただき、有難うございました。
アンケートにご協力いただいた方の感想を紹介させていただきます。

第2回 自泉Re.フレッシュコンサート ～羽ばたこう ふたたび～

平成27年8月22日(土) 午後6時30分～

演奏活動を一時中断された方を出演対象者としての昨年度に続き2回目のコンサートです。出演者には、平成28年3月にマドカホールで開催する「フレッシュプレミアムコンサート 未来へ～ここから～」の出演に推薦する道も開かれています。

今回のコンサートでは、暑い中参加された75人の方々が、さわやかな一時を過ごされました。



〈皆さんの声〉

- ◆文化事業協会が応援している人達が、こうして発表できる場があるという事は、とても良いことだと思います。
- ◆サクスが好きで、久しぶりに生で聞けて良かったです。
- ◆暑い日の中、久しぶりにさわやかなコンサートに接し、心がわくわくしました。
- ◆私がリフレッシュできました。今日は本当に来てよかったです。



蓄音機を使った 昭和初期のレコードコンサートVol.9

平成27年9月29日(火) 午後1時30分～

昔懐かしいSPレコードを聴いて楽しむコンサートで、今回で9回目になりました。平日の午後で、参加者は11人と少なかったのですが、参加者全員がレコードの音色に聴き惚れていました。

〈皆さんの声〉

- ◆童謡、映画音楽、クラシック、歌謡曲など幅広い選曲をして欲しい。

岸和田城下町巡り Part2

平成27年10月6日(火) 午前10:30～

知ってるつもりでも、意外と知らない岸和田城下。今回は、自泉会館～極楽寺橋～二の丸石垣～蛸地蔵～梅溪寺～旧五十一銀行跡など説明を受けながらの2時間弱の行程でした。会員対象のため10人でしたが適正な参加者でじっくり説明を聞くことができました。

〈皆さんの声〉

- ◆岸和田で生まれ育ったけれど、知らない所ばかりで、とても楽しい街歩きでした。
- ◆予定していたコースの半分ぐらい残ったのが残念でした。ぜひ、次回この続きをお願いしたいです。



岸和田城庭園 八陣の庭 薪能

平成27年10月2日(金) 午後6時30分～

浪切ホール・マドカホール・自泉会館による3館合同事業として、岸和田城庭園(八陣の庭)で「薪能」を開催しました。はじめての試みのう え前日の天候不順のため、開催が危ぶまれましたが約240人の入場者と共に幽玄の世界を満喫しました。

〈皆さんの声〉

- ◆最高に贅沢な会場で、薪能にふさわしいダイナミックに獅子の舞う「石橋」という番組を堪能いたしました。座席がフラットで見辛い所もありましたが、それも忘れるほどの素晴らしい舞台でした。お城に於ける一つのイベントの実績を積めたと感じます。

岸和白磁に転写紙を貼ってオリジナル小物入れを作ろう

平成27年8月22日(土) 午後6時30分～

参加者7名と少人数でしたが、皆さん和気あいあいとシンプルな作業に夢中でした。よほど楽しかったのでしょうか、新たに2名の方が事業協会の会員になりました。ありがとうございました。



〈皆さんの声〉

- ◆孫の参加を皆さん気持ちよく迎えて頂きました！ 子供の参加も、できるようなイベントも良いかなと感じました。作品の出来上がりを楽しみにしています。
- ◆花と思っておりまして、他のものには目がゆかず、ごくシンプルな作品になりました。何事も挑戦、素敵な時間だったと、感謝しています。
- ◆初めて岸和田文化協会の事業に参加しましたが、簡単にしかも手頃な価格で和気あいあいと楽しめました。簡単に素敵なものができるので、もっと他のものカップなども作ってみたいと思います。
- ◆トールペイント？ 白磁への絵付け体験？初めての体験で少し不安を持ちながら参加しました。
- ◆トールペイントについての熱いお話も聞き、人生楽しんでるんだなあとうれしかったことでした。

岸和田文化事業協会の事業 Information

第46回 自泉フレッシュコンサート ～名曲を訪ねて～

音楽を学び、プロフェッショナルとして歩み始めた新人演奏家によるコンサート

日時:平成27年12月4日(金)午後6時30分開演
会場:岸和田市立自泉会館ホール
入場料:会員前売1,000円(当日200円増)
一般前売1,200円(当日200円増)
出演者:廣中 愛 ソプラノ
星川 響子 ピアノ

ウインズ(WINDS)トーク&ミニLIVE

上新電機や吉野家など、50社以上のCMソングに加え、紀の国わかやま国体(2015年開催)イメージソングなどを手掛けるウインズ平阪を中心としたミニライブ

日時:平成27年11月8日(日)午後2時開演
会場:岸和田市立自泉会館ホール
入場料:前売2,000円(当日500円増)
出演者:ウインズ(WINDS)
ウインズ平阪(Vo./Gt.)
亀岡 利行(Vo./Gt./P.)・加納 洋志(Gt.)

岸和田文化事業協会 会員展

岸和田文化事業協会の会員による絵画・書道・陶芸などの作品展です。

日時:平成27年12月4日(金)～6日(日)
午前9時30分～午後5時 最終日は午後4時まで
会場:岸和田市立自泉会館展示室

ワークショップに参加しませんか?

材料費は各自負担となります。(各回10名程度)

	12/4日(金)	12/5日(土)	12/6日(日)
10:00～12:00	パルーンアート (加藤先生)	刺繍(若野先生)	書道(齊藤先生)
13:30～15:30		絵画(辻井先生) (赤井先生)	パッチワーク (小木曾先生)

※詳しくは、チラシをご覧ください。

新春 邦楽コンサート 箏・尺八の響 和洋融合

日時:平成28年1月29日(金)午後7時開演
会場:岸和田市立自泉会館ホール
入場料:前売2,000円(当日500円増)
チケット発売日 会員=12月8日(火)・一般=12月15日(火)
曲目:和洋枕草子絵巻 他

第5回 自泉ジュニア コンサート

オーディションで選ばれた小学生～高校生によるコンサート

日時:平成28年3月6日(日)午後2時開演
会場:岸和田市立自泉会館ホール
入場料:無料(当日先着100名まで)

出演者を募集します!

ピアノ・声楽・弦楽器・木管楽器演奏に限ります。

(複数名での演奏も可、ただしコーラス等は不可)

♪対象年齢 小学生～高校生

♪参加費 2,000円

♪出演の為にオーディションがあります!

コンサートで演奏する曲(3分～8分程度)をご用意ください。
オーディションでは、3分程度で演奏を中断していただくこと
になります。また、伴奏者が必要な方は各自ご用意ください。

♪オーディションの日程

平成28年2月6日(土)午後2時～

学年順により演奏。(演奏順は変更できません。)

♪申込方法

氏名・学年・住所・電話FAX番号・演奏曲目(作曲者名)・演奏時間・演奏楽器
名をお書きの上、11月28日(土)までに参加費を添えて自泉会館へお持
ちいただき、下記の住所へ郵送でお申し込みください。郵送でお申し込み
の方は、参加費を下記までお振り込みください。

お申込みいただいた方には、12月25日(木)までにオーディションの案内を郵
送いたします。

郵便振込 口座番号 00970-9-28145

加入者名 岸和田文化事業協会(振込料は各自ご負担ください。)

♪申込み・問い合わせ

岸和田文化事業協会

〒596-0073 岸和田市岸城町5-10 岸和田市立自泉会館 内

TEL/FAX 072-437-3801 Eメール fontaine@sensyu.ne.jp

■お問い合わせ 岸和田文化事業協会事務局まで

TEL/FAX 072-437-3801 Eメール fontaine@sensyu.ne.jp

文化の日祝典記念事業

文化情報

「佇まふ、ひびき～ギターヒトリカタリと朗読」

日時:11月3日(火・祝)午前11時30分開演
場所:マドカホール(荒木町1丁目)
出演:岡崎 泰正…ギターリスト、シンガーソングライター、作曲家

津田 道子…朗読

入場料:無料(要整理券)

定員:300人 受付:10月6日(火)から申込先着順

申込方法:①往復はがきでお申込ください。はがきに住所、氏名(返信はが
きには宛名)、電話番号、人数(2人まで)を記入し、マドカホール
「文化の日祝典」係まで
②整理券をお求めください。マドカホール・自泉会館で整理券を
配付します。※1人2枚まで

申し込み・問い合わせ:マドカホール「文化の日祝典」係まで

〒596-0004 岸和田市荒木町1-17-1 TEL443-3800(月曜日休館)

nouvelle Fontaine vol.49

発行:岸和田文化事業協会

発行日:2015年10月25日

◆事務局

〒596-0073

岸和田市岸城町5-10 岸和田市立自泉会館内

TEL/FAX 072-437-3801

Eメール fontaine@sensyu.ne.jp

◆編集委員

本郷元子・黒木幸子・小島栄子
齒黒猛夫・藤田保平・堀野和人

編集後記...

秋の夜長久しぶり読んだのは、有名な『ゆく河の流れは絶えずして、しかももとの水にあらず。』で始まる鴨長明が書いた随筆「方丈記」でした。

時は平安末期から武士社会への一大乱世時代。長明自身が経験した竜巻や大地震などの天変地異のことが書かれており、現代でも歴史史料として活用されているそうです。

今の時代に繋がることばかり。『古言』他人事にせず受け止めていくことが大切だと思いました。(小島)

<http://www2.sensyu.ne.jp/fontaine/>

岸和田文化事業協会

検索